

2017年の観察記録

野鳥の月別観察数（年間総観察日数 308日）														
観察日数（日）		24	24	27	26	26	27	26	26	26	26	24	308	
No.	種 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1	アオゲラ	21	24	25	19	10	4	2		7	19	26	21	178
2	アオサギ				1									1
3	アオジ				3	7					6	1		17
4	アカゲラ	23	24	27	25	25	14	9	12	13	17	22	23	234
5	アカハラ				2	6					5	2		15
6	アトリ	1		6	6							2	3	18
7	イカル	1			1	6	1	2	12	14	6	4		47
8	ウグイス					1	3	1					1	6
9	ウソ	5	6	4										15
10	エゾムシクイ					1		1	1					3
11	エナガ	11	10	13	18	3			1	2	7	10	4	79
12	オオタカ		1		1	1						2		5
13	オオハクチョウ	1	4	18							3	4	5	35
14	オオマシコ	1												1
15	オオルリ				1	1		3	6	1				12
16	カケス	6	16	6	3					3	3	1	3	41
17	カシラダカ	2		2	7	3						1	2	17
18	カッコウ				1	1	8							10
19	カルガモ		1			8	3		1		1	4	1	19
20	カワラヒワ			9	26	26	25	27	25	3	2	2		145
21	キクイタダキ	8	1	7										18
22	キジ		1											1
23	キジバト			24	25	26	26	25	26	26	26	15	16	235
24	キセキレイ					3				2		1		6
25	キビタキ				4	26	25	25	14	15	2			111
26	クロツグミ				11	17	2		1		2			33
27	コガラ	10	6	8	2						3	11	18	58
28	コゲラ	17	16	26	21	10	8	13	8	10	22	21	22	194
29	コサメビタキ				1									1
30	ゴジュウカラ	22	24	25	26	21	3	11	18	12	11	26	24	223
31	コムクドリ				4	16								20
32	サメビタキ									3	3			6
33	サンコウチョウ						2			1				3
34	シジュウカラ	24	24	27	26	26	25	26	26	25	26	26	24	305
35	シメ	23	24	27	26	24	3	4	8	18	26	19	10	212
36	シロハラ	1	1		1							1		4
37	スズメ	24	24	27	26	26	26	27	16	1	2	12	24	235
38	センダイムシクイ				1	4			1	2	1			9
39	ツグミ(基亜種)	19	23	10	1	1					2	19	20	95
	ハチジョウツグミ(亜種)											1		1
40	ツバメ					1								1
41	ツミ			3	2		1	2	1					9
42	トビ	2	6	7	4	1	1		2	1		6	2	32
43	ノスリ	3	1	6	8	1	4		2	1		3	2	31
44	ハイタカ	5	5	9	4	2					1	1	9	36
45	ハシブトガラス	19	21	27	26	25	26	24	25	25	25	24	24	291
46	ハシボソガラス			3		2	1		4	3	6	15	5	39
47	ハヤブサ				1									1
48	ヒガラ	3		7	14	12	1				10	13	6	66
49	ヒヨドリ	24	24	27	26	26	23	12	8	4	16	22	24	236
50	ビンズイ					1								1
51	ベニマシコ	5	1										5	11
52	ホオジロ				1									1
53	ホトギス						2							2
54	マガン										1	1		2
55	マヒワ	1		2	1							4	2	10
56	マミチャジナイ										5	2		7
57	ミソサザイ	1										2	9	12
58	ミヤマホオジロ	2											2	4
59	ムクドリ								1					1
60	メジロ				7	11	4	9	6	7	11	3		58
61	モズ	2	1		1				1		1	2		8
62	ヤブサメ					2	1							3
63	ヤマガラ	24	24	27	26	26	18	27	24	26	26	26	24	298
64	ヤマドリ	1								1				2
65	ルビビタキ											1		1
66	ミサゴ				1				1					2
67	ヤマシギ				2									2
68	アリスイ						1							1
69	キバシリ									2	2	1	4	9
70	カワウ												1	1
71	ダイサギ												1	1
	月別種数	32	26	28	43	38	28	19	27	27	33	41	31	

1月 雪の少ない穏やかな新年を迎えましたが、小寒の頃には数年に一度の強烈な寒波がやって来ましたが、キクイタダキやウソもやって来て冬本番を感じさせます。そんな中、同じ個体のツグミ（足にできもの）が、ヒヨドリの恫喝にもめげず2週間ほど観察窓下のリンゴにやって来ました。

2月 真冬が続く、観察窓からの眺めはすっかり雪景色となりました。しかし、光の春。晴れた日には森の奥からキツツキのドラミングも聞こえて来るようになりました。ハイタカは定期的に狩りに来るようになり、奥のエドヒガンにはアカウソ（ウソの亜種）の姿も見えました。

3月 3月に入ると森の中には雪が残っているものの、ゴジュウカラが巣材の泥を運ぶなど、繁殖の準備が始まっています。中旬にはフクジュソウもほころび始めました。しかし、3月は1年で一番食べ物が少ない時期。鳥用に出しているリンゴ狙って昼にキツネやテンが現れました。

4月 本格的な花の季節の到来です。10日にはアズマイチゲ、カタクリが開花しました。夏鳥達も次から次へと帰って来ます。17日にはクロツグミが、22日にはコムクドリが、28日にはアカハラ、オオルリ等が帰って来て、森は一気ににぎやかになりました。

5月 森の緑は日に日に濃くなって行きます。14日には観察窓から見える小さな池にカルガモのペアがやって来て、8日に渡って間近で見ることができました。カルガモの雌雄の区別は難しいのですが、並んでいると区別が可能でした。ヤマシギが池の畔で、採餌しました。

6月 6月は梅雨の季節。しかし、前半はカラッとした晴天が続く、21日に久しぶりに雨が降りました。気象庁は東北地方が梅雨に入った模様と発表しました。5日にはリンゴの匂いに誘われてキツネが現れ、次にタヌキもやって来ました。7日にはテンまで現れて、三役そろい踏みの月となりました。

7月 森の中にそれぞれ散らばって子育てしていた小鳥たちが、幼鳥を連れてやって来るようになりました。セミの大合唱も聞こえて来るようになり、2日には国蝶のオオムラサキが観察され、夏の到来です。14日、強い日射しの中、シジュウカラ、キビタキ等が羽を広げて虫干しを始めました。

8月 2日には、気象庁は梅雨明けした模様と発表しましたが、天候は不順で、東京では23日も雨の日が続いたと報道されました。7日にはまだら模様が目立つオオルリの幼鳥がやって来ました。25日には徐々に太陽が顔をのぞかせ、天気は誘われたのか、イカルの幼鳥もやって来ました。

9月 夏らしい夏がないまま9月に入り、セミの大合唱もいつしか消えて、サクラやツタウルシが色づき始め秋の到来です。1日にはヒメグルミの幹を歩く小さな鳥を見つけました。細い嘴が下に湾曲しています。キバシリでした。日本各地に広く分布するものの、数が少なく、ほとんど見かけることがない鳥です。同じ日に粗朶の間を大きな蛾が飛んでいるなあと見て見ていると、小枝にさかさまに止まりました。何と小さなコウモリ、コテングコウモリでした。

10月 気象予報は、連日のようにこの秋の最低気温の更新を告げ、中旬には紅葉のピークを迎えました。観察窓からは夏鳥達が越冬地へ向かう途中で姿を現すようになりました。5日には岩手山に初冠雪があり、高い山から追われるように来たのでしょうか、クロツグミが水浴びをして行きました。9日には9月以来、再びキバシリが現れました。19日にはアオジが池の縁のミゾソバの種子を盛んについばんで行きました。マミチャジナイが長旅の途中、水場に立ち寄り行って行きました。

11月 11月は日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過し、上旬は晴れた日が多く、2日には冬鳥のアトリとマヒワが姿を現しました。5日には今年一番のハイライト。オオタカが観察窓の直ぐ下でカルガモを狩り、閉館の16時頃まで、「そのう」をパンパンに膨れ上がるほど、食べられる限り食べ続けました。ハシブトガラスの横取りを逃れたようです。

9日にはキクイタダキが山から下りて来て、季節の移ろいを感じさせました。18日には寒気に追われるようにツグミもやって来て、ツタの実を食べて行きました。